

## ○ 委員長報告

9月定例会本会議で報告されたスポーツ文教警察委員長報告は、以下のとおりです。

平成30年9月定例会

### スポーツ文教警察委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、愛媛国際映画祭プレイベント開催事業についてであります。

このことについて一部の委員から、松山市と共催することであるが、事業費はどのように負担するのか。また、映画祭を継続して開催していくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、実施にあたっては実行委員会を立ち上げ、県が1,000万円を負担し、うち500万円は国の交付金を活用することとしている。また、松山市でも別途500万円を負担することとしている。

今年度は松山市を中心にプレイベントを開催することとしており、その結果を踏まえて来年度以降の本格開催につなげ、県内各地で開催することを検討するとともに、本格開催後3年は県が主体となって実施し、その後は、民間主体での実施を目指すよう検討を進める旨の答弁がありました。

第2点は、全国学力・学習状況調査の結果及び対応についてであります。

このことについて一部の委員から、本県の全国学力・学習状況調査の結果はどうか。また、上位の学力水準を維持していくために、どのように取り組んでいくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、今年度の全国学力・学習状況調査は、国語、算数・数学、理科の3教科で実施され、本県は、小中学校ともに全ての教科で平均正答率が全国平均以上で、順位は小学校10位、中学校6位であった。

県教育委員会では、国の新学習指導要領の全面実施を見据え、県学力向上推進3か年計画に沿って、各学校における課題を明確にし、組織的な取組みを推進するため、本県独自に学力向上推進主任を設置している。また、子ども一人一人の学力の定着状況を把握するため、本県独自の学力診断調査を実施し、授業改善に努めている。

引き続き、こうした取組みを着実に実施し、児童生徒の学力の定着と向上に努めていきたい旨の答弁がありました。

第3点は、県内の交通死亡事故抑止対策等についてであります。

このことについて一部の委員から、県内の交通死亡事故の原因について、どのように分析し、対策に取り組んでいるのか。また、交通安全施設の整備状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、本県の交通事故の特徴は、交通事故の致死率が全国に比べて高いことであり、特に、歩行者が道路を横断中の死亡事故が多く、また、衝突時の車の速度が速いという分析結果が出ている。

このため、幹線道路における速度取締りや歩行者への反射材着用の指導などに重点的に取り組んでおり、本年9月末の交通死者数は、35人と前年同期比で22人減少し、一定の成果が挙げられている。

交通安全施設の整備は、交通死亡事故抑止対策として県警と県土木部が連携して取り組んでおり、県警では、横断歩道の高輝度化約1,100本などの整備を10月中に完了する予定である旨の答弁がありました。

このほか、

- ・東京オリンピック事前合宿等支援事業
- ・四国遍路の世界遺産登録に向けた取組み
- ・学校におけるエアコンの整備促進
- ・廃校となった校舎の有効活用
- ・県警における児童虐待事案の対応状況等
- ・地域警察官の受傷事故防止対策

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。